

審査の結果の要旨

氏 名 孫 錫毅

論文題目 生徒のテリトリー形成からみる総合学科高校の建築計画的な研究

本論文は、総合学科高校における生活空間での行動環境に着眼し、校舎環境整備による物理的特徴を把握し、各居場所における生徒の使い方、校舎でのテリトリー形成による行為・認識を明らかにし、生徒のテリトリー形成に影響を及ぼす要素を究明することを目的とする。これによって、今後の総合学科高校の校舎環境に対し建築計画のあり方を模索するものである。

単位制・総合学科高等学校は、生徒が科目を選択し、個性を生かせる主体的な学習を重視する教育を行っている。一方、移動授業を行っていることから、従来の学校における生徒の生活・学習の中心であった自分の席・自教室がなくなり、学習集団もクラスから選択授業単位へと変わっている。従って、クラスに対する帰属意識が低下し、生徒個人やグループの居場所が不安定になるという問題が予想されることが背景になっている。

本論文は全6章で構成される。

第1章では、本研究の背景、目的、位置づけを明らかにし、研究の構成を示している。

第2章では、全国における総合学科を実施している高等学校を対象とし、郵送アンケートを行い、校舎や室・スペースの整備状況を明らかにした。さらに校舎の図面分析を通し、校舎棟の配置、校舎整備による「HB・HR 教室」、「ロッカー」、「ラウンジ」等の空間構成の特徴を把握し、次章での校舎の空間的特性による生徒の実際の使われ方等に関する調査における、調査対象校の選定の基準をつくっている。

第3章では、第2章で示した校舎環境の特徴から、校舎の整備や、HB・HR、共用スペースの構成等における特徴による5つの学校を選定し、視察調査を行い、総合学科の運営における課題と空間的工夫、学習および生活空間での物理的な状況や家具の設え、生徒の利用特性などについて記述した。

第4章と第5章では、視察調査の結果を踏まえ、「校舎利用に関する生徒へのアンケート調査」を行い、生徒の活動場所と行為のデータに基づいて分析を行っている。

第4章では、各校舎環境の特徴による生徒の場所選択の分布と、各室・スペースにおける選択行為の傾向、ベース空間の選択利用を中心とするパターンによる空間利用上の特性を明らかにした。

生徒は自分の縄張りとして認識しているベース空間を利用することによって、ベース空間内にグループのテリトリーを形成するに加え、他の場所でも交流行為を行っており、帰属集団とその以外の集団との交流の場所が求められる。しかし、クラス HB では一部生徒の占有が現れ、他の生徒は個人利用のみを行っている。ベース以外では、ベース空間から近い共用空間や空き教室等への場所利用が行われる。ここでは異集団に対する排他的な場所選択の傾向が見られ、特に男子生徒は高学年の利用場所を避け、グループの場所を選択する。さらに、男子生徒は視覚的に隠れている狭い場所、相対的に女子生徒は広くオープンな場所を選び、男女間の棲み分けが現れる傾向が明らかになった。

第5章では、生徒の活動場所の中、校舎環境によるお気に入り場所の形成状況を把握すると共に、そこで行われる活動内容、選択理由の回答による、生徒のテリトリー形成に対する認識を把握した。

ベース空間では同学年やクラス内の交流が行われ、お気に入り場所へ認識されると考えられる。しかし、クラス HB と HR 教室を個人でしか利用しない生徒の認知率は非常に低いことから、ベース空間での交流がお気に入り場所への認識に繋がるということが考えられる。ベース空間以外においても生徒は同

集団間での交流場への良い認識を形成していることが分かる。しかし、空き教室は授業等の利用制限があり、ラウンジ等は異集団の雑居等があり、ベース空間以外をお気に入り場所として認識しても、それが生活満足度に影響を及ぼしていないことが明らかになった。

本研究の結論である第6章では、上記の分析の結果をまとめ、本調査から得られた総合学科高校の建築計画的あり方への知見、今後の課題についてまとめた。

以上のように本論文は、総合学科高校における生徒のテリトリー形成状況を明らかにし、生徒の居場所形成に影響を与える要素を示した。今後の学校の計画に、特に総合学科高校のように自分の席・教室をもたない学校が多くなる中で、重要な知見を提示するものであり、建築計画学の発展に大いなる寄与となりうるものである。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。